

日興アセットマネジメント株式会社

フィデューシャリー・ESG 原則に係る行動指針 への取組み状況について

2021年1月29日

日興アセットマネジメント株式会社

代表取締役会長兼共同 CEO 佐谷戸 淳一

代表取締役社長兼共同 CEO 安倍 秀雄

<はじめに>

私たちは、お客様からお預かりした資産の運用に携わるものとして、お客様の最善の利益を最優先に行動することを使命とし、フィデューシャリー原則とESGの原則を当社の企業理念と企業活動の最高位に位置付けています。

また、私たちは責任ある機関投資家として、ESG(環境・社会・ガバナンス)評価やスチュワードシップ活動を投資プロセスの中核に位置付け企業の長期的な価値向上と持続可能な社会の成長に貢献する活動に日々努めています。

日興アセットマネジメントは、個人のお客様から機関投資家のお客様まで幅広い投資家の皆様に様々な形で運用力を提供するいわゆる投資信託や運用商品の専門メーカーです。メーカーとして、お客様の資産形成や資産運用に少しでもお役に立てるよう、日々、お客様から賛同とご支持をいただける商品の提供や運用力向上のための工夫、商品のリスクリターンを分かりやすくご理解いただくための取組み、お客様の投資判断に貢献できる社会情勢や市況情報に関するニュートラルな情報発信といった活動を続けています。そういった各種取組みについて、2020年(1月～12月)の総括を具体例や自主的指標と共にご報告させていただきます。

1. 個人および法人のお客様に向けた活動

1.1 個人のお客様に向けた活動

私たちは、資産運用会社としてお客様の中長期の資産形成のお役に立つことが、最も重要な使命であると考えています。そのためには、良い運用成果をご提供する事はもちろん、資産運用や私たちが提供する商品に関する正しい知識を分かりやすく簡潔にお伝えすること、お客様の投資判断のお役に立てるよう適時適切に市場動向に関する積極的なそしてニュートラルな情報発信をすること、中長期投資に適した商品をお客様のニーズに応じて提供すること、お客様の投資のリスク管理のお手伝いをする事など、あらゆる面での努力が必要であると考えています。

以上に挙げた項目につきまして、これまでの取り組みやその成果をご紹介します。

1.1.1 残高上位10ファンドの想定平均保有期間

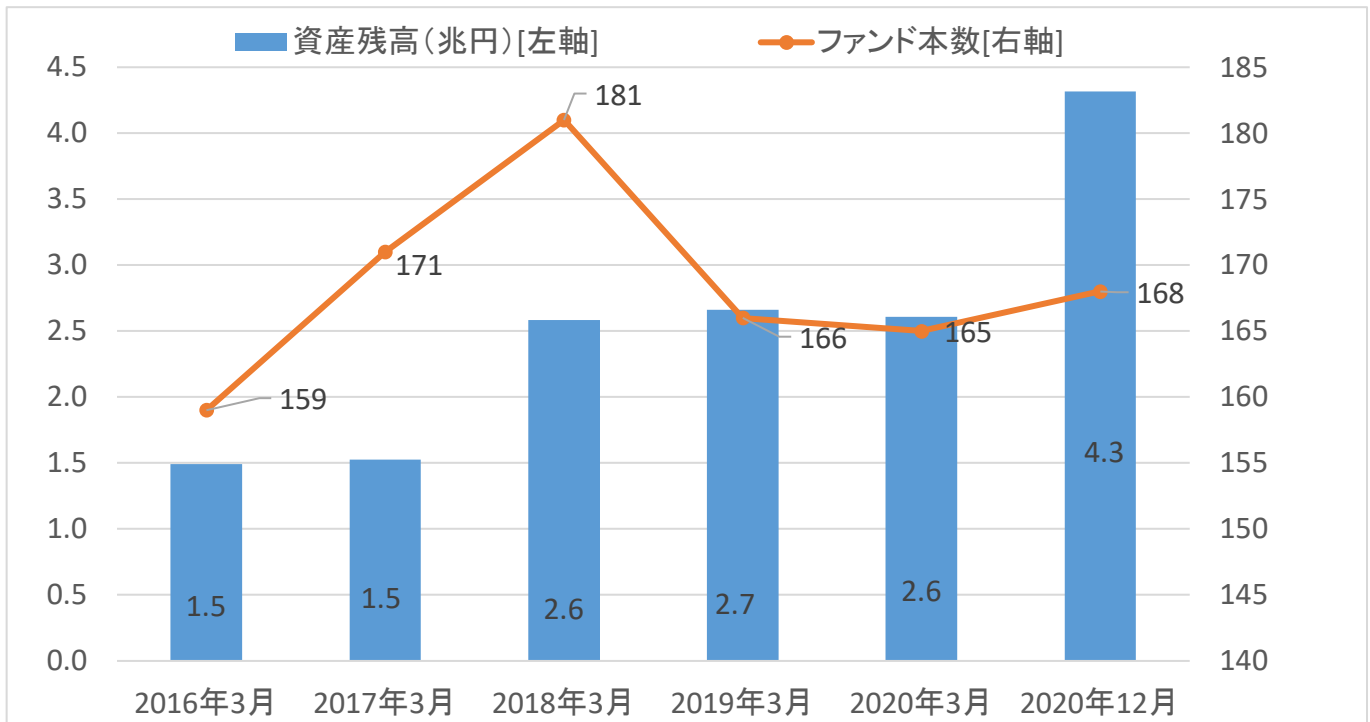
順位	ファンド名称	想定平均保有期間(年)	残高(億円)	ファンドの投資先・タイプ
1	グローバル・プロスペクティブ・ファンド	5.31	8,192	海外株式・アクティブ
2	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	3.17	3,775	海外株式・アクティブ
3	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	5.96	3,621	バランス
4	スマート・ファイブ(毎月決算型)	12.59	3,599	バランス
5	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2.32	3,140	海外株式・アクティブ
6	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	4.47	3,103	海外リート・アクティブ
7	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	1.52	2,848	バランス
8	グローバル・フィンテック株式ファンド	1.56	2,611	海外株式・アクティブ
9	インデックスファンド225	1.90	1,982	国内株式・パッシブ
10	グローバル・フィンテック株式ファンド(年2回決算型)	3.69	1,866	海外株式・アクティブ

※※想定平均保有期間は「年間平均残高÷年間解約額」で計算(計算期間は2020年の1年間)した理論上のもので、投資家の実際の平均保有期間とは異なります。

※設定額や残高に比して解約額が非常に少ないファンドは、投資家が実際に保有した期間より大きな値となることがあります。

※残高は2020年12月末。運用期間が1年未満のファンド、ETF、MRFを除いた残高上位ファンド。

1.1.2 資産形成型ファンド（公募株投除くETF、決算回数が年2回以下）の資産残高、本数



当社は運用会社としてお客様の長期的な資産形成のお役に立つことを最大の使命としています。資産運用会社のビジネスは、お客様の資産と共に成長して初めて成長できるビジネスです。長期的な資産形成に適した公募株投(除くETF、決算期間が年2回以下)のファンド本数は2020年12月時点で168ファンド、運用資産は約4.3兆円になります。

当社が考える、顧客の中長期的な資産形成ニーズに適している主な公募投資信託(例)

ファンドの投資先	ファンド名称	決算期間	残高(億円)
国内株式・アクティブ	ジャパン・ロボティクス株式ファンド	年1回、2回	699
	日興ジャパンオープン	年1回	371
	年金積立Jグロース	年1回	384
海外株式・アクティブ	グローバル・ロボティクス株式ファンド	年1回、2回	6,915
	グローバル・フィンテック株式ファンド	年1回、2回	4,478
海外債券・アクティブ	高金利先進国債券オープン(資産成長型)	年1回	74
バランス	スマート・ファイブ(1年決算型)	年1回	578
	ファイン・ブレイク(資産成長型)	年1回	270
	GW7 つの卵	年1回	507
	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)資産成長型	年1回	164
	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	年1回	2,848

※残高は2020年12月末、シリーズファンドの場合は、合計値を記載。ファンドの投資先別に運用資産残高が大きい順。

※複数決算タイプのファンドの場合、ハイパーリンクは残高の一番大きいファンドのページにリンクを張っています。

1.1.3 つみたてNISAも含めた積立投資への取組

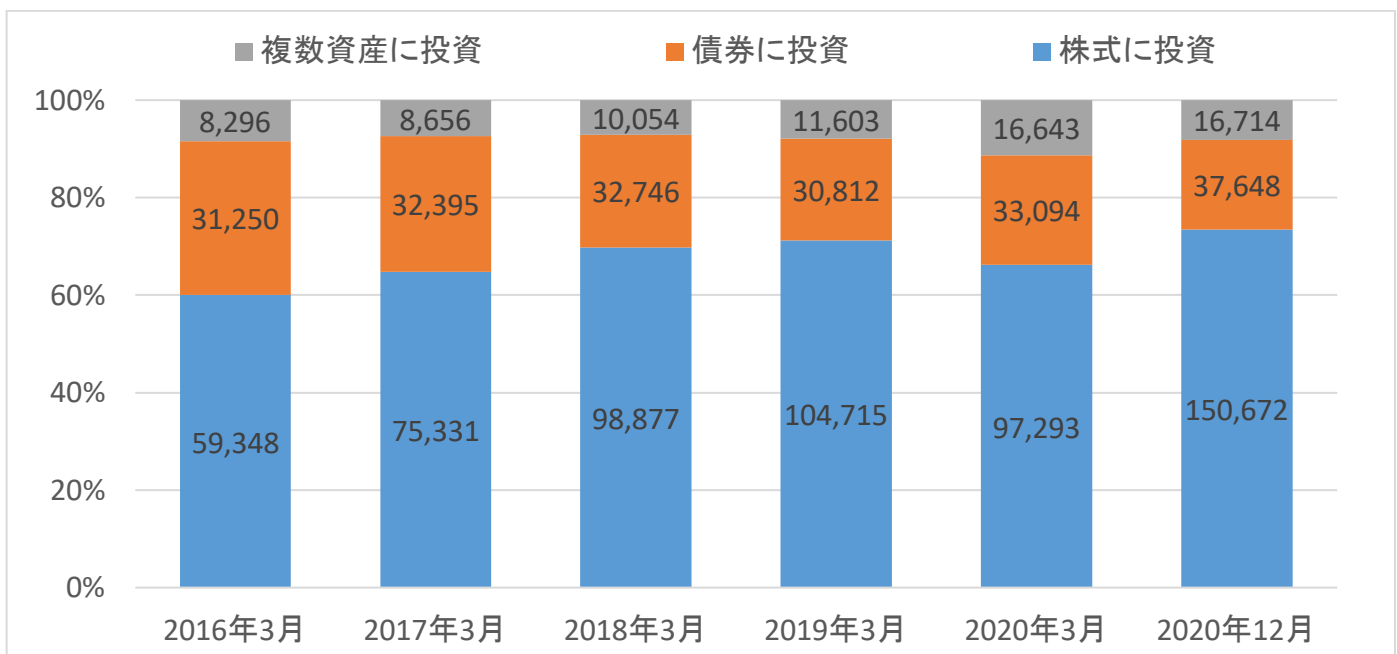
当社は、「つみたてNISA」のみならず、DC・iDeCo や一般口座での積立投資の推進にも注力しており、資産形成層に対して“長期・積立・分散投資”を提唱しております。販売会社に商品を提供するだけでなく、各種サポートツールも制作・提供し、積立投資への取組みを支援しています。

現在、当社では「つみたてNISA」適格ファンドとして5本の登録が完了しております。

また、販売会社向けに“商品戦略セミナー”等において、投資家のインベスターリターンを向上させるための実効性が高い方策として、「積立投資を実践すること」を強調しました。

1.1.4 国内籍公募投資信託の運用資産とパフォーマンス（ETF、MRF等を含む）

投資資産別の運用資産比率の推移 ※グラフ中の数値は運用資産額(億円)



国内籍公募投信の残高合計の推移（単位：億円）

2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2020年12月
98,894	116,382	141,678	147,130	147,030	205,034

※集計対象は、公募投資信託(ETF、MRF等を含む)。

※「株式に投資」には、リートを含む。

当社は運用部隊を人事評価及び処遇面においてもプロとして明確に位置付けており、ファンド・マネージャーやアナリストは独自のキャリア・パスを持っています。また評価・報酬体系は、中長期の運用成績を重視しています。加えて、主要な運用者に対しては、グローバルにリテンションの仕組みを導入しています。当社では、このような評価・報酬体系や仕組みを通してファンドのパフォーマンス向上に取り組んでいます。

当社がお客様からお預かりしている公募投資信託の投資資産別の割合(2020年12月末)は、「株式に投資するファンド」が74%、「債券に投資するファンド」(MRF含む)が18%、「複数資産に投資するファンド・その他のファンド」が8%となっております。

【株式に投資するファンド】過去3年間の騰落率上位

順位	ファンド名称	設定年月	残高 (億円)	騰落率(分配金込み)(%)				
				設定来	5年	3年	1年	
1	グローバル・フィンテック株式ファンド(為替ヘッジあり)	2017年9月	360	154%	-	133%	91%	
2	グローバル・フィンテック株式ファンド(為替ヘッジあり・年2回決算型)	2017年9月	234	152%	-	131%	90%	
3	グローバル・フィンテック株式ファンド	2016年12月	2,611	227%	-	128%	83%	
4	グローバル・フィンテック株式ファンド(年2回決算型)	2017年9月	1,866	150%	-	125%	81%	
5	深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	2017年11月	468	62%	-	61%	61%	
6	グローバル・ロボティクス株式ファンド(為替ヘッジあり・1年決算型)	2017年1月	235	90%	-	46%	32%	
7	グローバル・ロボティクス株式ファンド(為替ヘッジあり・年2回決算型)	2017年1月	223	89%	-	45%	31%	
8	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2015年8月	3,140	115%	105%	42%	29%	
9	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	2015年8月	3,775	114%	104%	42%	29%	
10	上場インデックスファンド米国株式(S&P500)	2010年10月	217	367%	64%	32%	10%	
(参考指標:国内株式) TOPIX						17%	-1%	5%
(参考指標:海外株式) MSCI 全世界株式インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)						38%	16%	7%

※公募追加型投資信託(ETF含む)。残高は2020年12月末。残高100億円未満のファンドは除外

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

【債券に投資するファンド】過去3年間の騰落率上位

順位	ファンド名称	設定年月	残高 (億円)	騰落率(分配金込み)(%)				
				設定来	5年	3年	1年	
1	グローバルCoCo債ファンド 円ヘッジコース	2014年10月	109	42%	34%	13%	6%	
2	上場インデックスファンド米国債券(為替ヘッジあり)	2016年8月	184	4%	-	11%	8%	
3	上場インデックスファンド米国債券(為替ヘッジなし)	2016年8月	253	16%	-	9%	3%	
4	日興ピムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型(米ドルコース)	2003年9月	166	150%	25%	6%	0%	
5	インデックスファンド海外債券ヘッジなし(DC専用)	2002年12月	345	93%	7%	6%	5%	
(参考指標) FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)						8%	7%	5%

※公募追加型投資信託(ETF含む)。残高は2020年12月末。残高100億円未満のファンドは除外

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

【複数の資産に投資するファンド・その他】過去3年間の騰落率上位

順位	ファンド名称	設定年月	残高 (億円)	騰落率(分配金込み)(%)			
				設定来	5年	3年	1年
1	ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり(SMA専用)	2017年9月	390	33%	-	32%	22%
2	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)資産成長型	2009年8月	164	103%	27%	14%	3%
3	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	2003年8月	3,621	133%	26%	14%	2%
4	GW7つの卵	2003年2月	507	174%	27%	10%	6%
5	DCインデックスバランス(株式60)	2002年12月	128	145%	24%	9%	6%

※公募追加型投資信託(ETF含む)。残高は2020年12月末。残高100億円未満のファンドは除外

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

直近1年間の騰落率上位10ファンド

順位	ファンド名称	設定年月	残高 (億円)	騰落率(分配金込み)(%)			
				設定来	5年	3年	1年
1	グローバル・プロスペクティブ・ファンド	2019年6月	8,192	142%	-	-	126%
2	グローバル・フィンテック株式ファンド(為替ヘッジあり)	2017年9月	360	154%	-	133%	91%
3	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	2019年1月	1,039	118%	-	-	90%
4	グローバル・フィンテック株式ファンド(為替ヘッジあり・年2回決算型)	2017年9月	234	152%	-	131%	90%
5	グローバル・フィンテック株式ファンド	2016年12月	2,611	227%	-	128%	83%
6	グローバル・フィンテック株式ファンド(年2回決算型)	2017年9月	1,866	150%	-	125%	81%
7	グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)	2018年1月	560	78%	-	-	78%
8	深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	2017年11月	468	62%	-	61%	61%
9	アジア・ヘルスケア株式ファンド	2015年1月	127	11%	15%	28%	49%
10	グローバル・ロボティクス株式ファンド(為替ヘッジあり・1年決算型)	2017年1月	235	90%	-	46%	32%

※公募追加型投資信託(ETF含む)。残高は2020年12月末。残高100億円未満のファンドは除外

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

1.1.5 ファンド運用の効率化への取組み

運用会社は、投資家の皆様に対して、より魅力的で良質な商品を開発・運用し続けていくことが大事だと考え、日々、当社ファンドのラインナップ拡充や残高拡大に努めております。

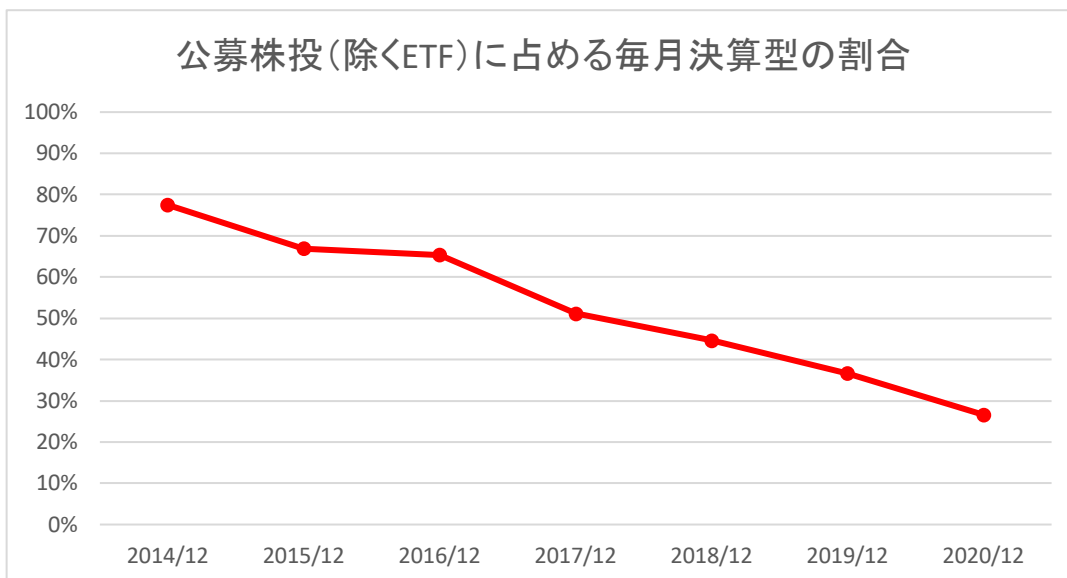
しかしながら、当社ファンドの中には残高が小規模となっているものがあることも事実です。そうしたファンドは運用コストが相対的に高くなり、投資信託説明書や信託約款等で定めた運用方針に沿った運用が困難となるなど、結果としてお客様の期待する投資成果を中長期的に継続して実現することが困難となる場合があります。

当社では、そうした小規模ファンドについて、信託期間満了による償還に加えて、信託期間繰上による償還を法令に基づいた手続きを行なった上で進めております。

2020年1月～2020年12月において、公募投信で償還を行ったファンドは24本、このうち受益者様のご理解を得て繰上償還を行ったファンドは10本です。

こうした取り組みは、ファンドの良質な商品性の維持や良好な投資成果の実現を達成するために不可欠なものであり、当社の人的資源を効果的に配分することは、中長期的に投資家の皆様の利益につながっていくものと確信しております。

1.1.6 中長期投資のための分配パターンの変更：国内籍公募投資信の残高構成比



残高ベースにおいて、公募株投(除くETF)に占める毎月分配型の割合は低下傾向にあり、2020年12月時点で27%となっています。

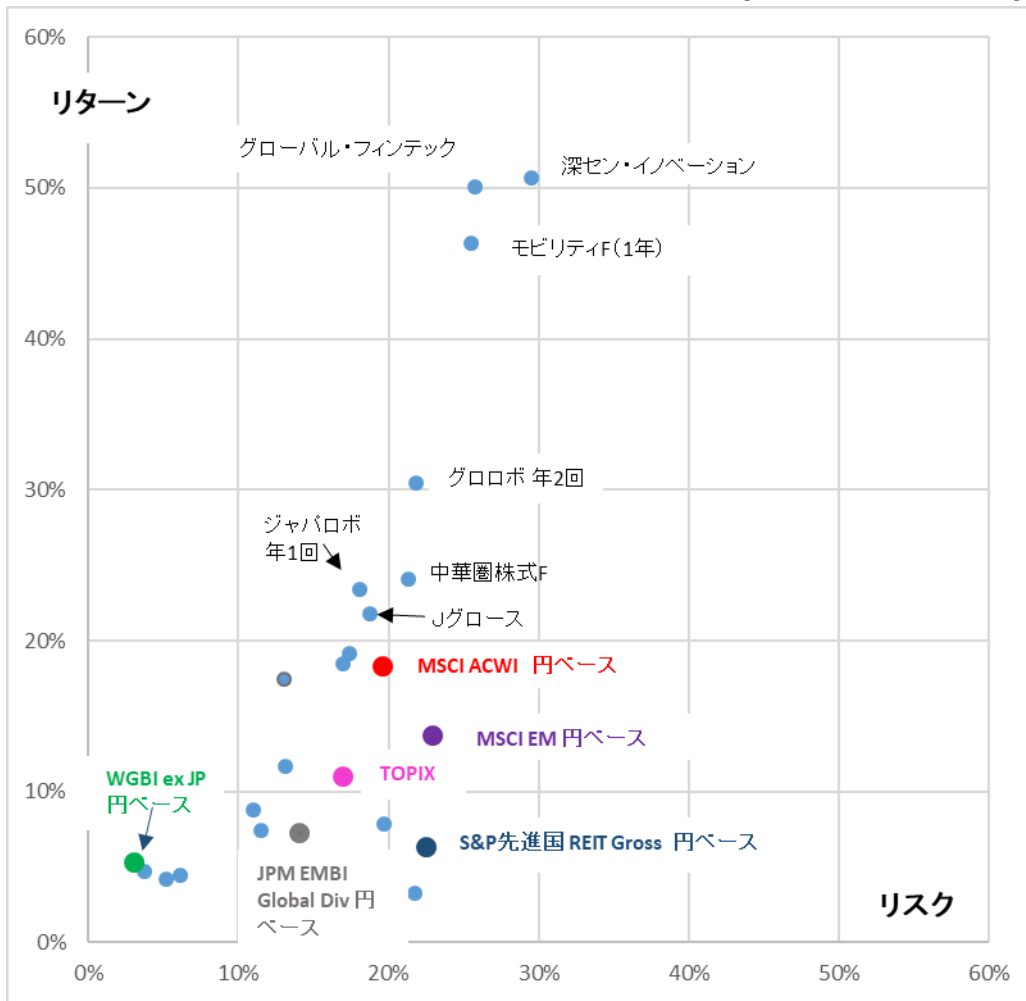
1.1.7 当社代表ファンドのリスク/リターン特性について

<当社代表ファンドの選定手順>

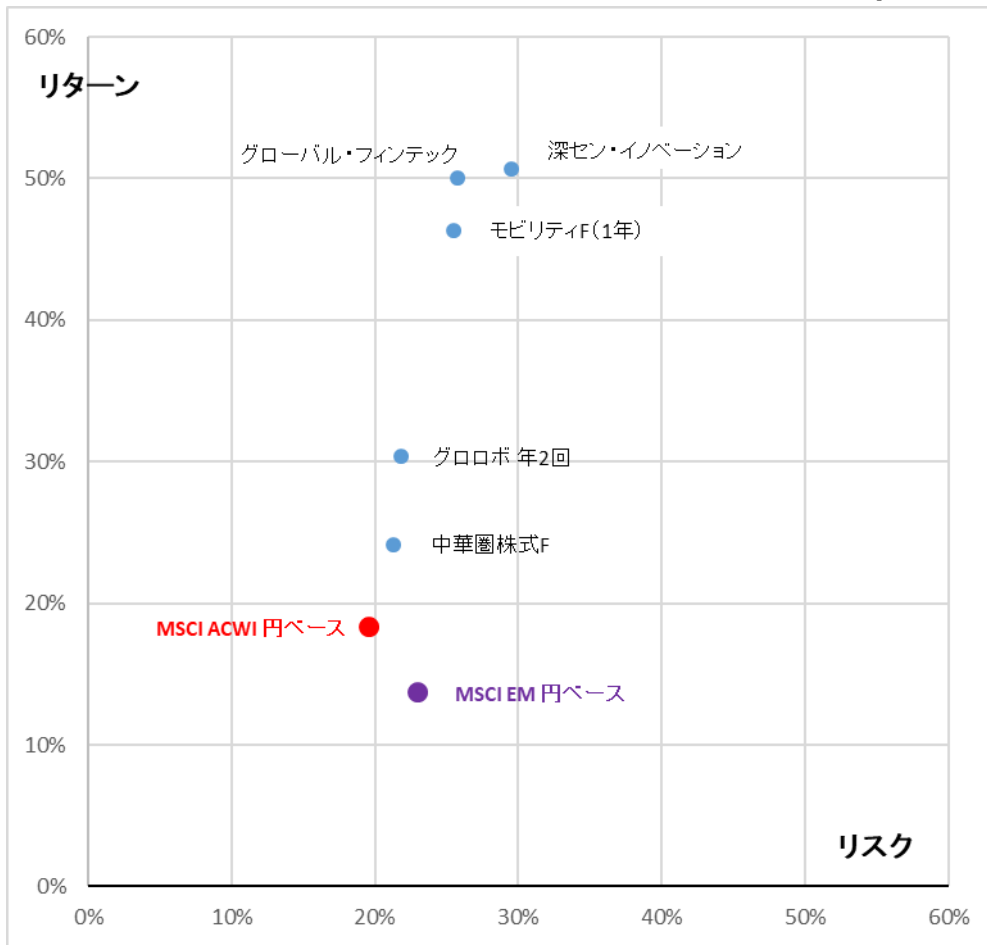
1. 当社の公募投信の中から、マネー型、ETF、インデックスファンドを除外し、2020/10/末時点の残高でランキング。
2. 残高上位ファンドの中にシリーズファンドが複数あった場合は、残高の大きいファンドの方を採用。
3. 運用期間に関しては、2020/11/末時点で、1年未満のファンドは除外し、次表の20本を代表ファンドとした。

	ファンド名称	残高(億円) 2020/12/末	設定年月	資産クラス	リスク/リターン プロ ファイル上での略称名
1	グローバル・プロスペクティブ・ファンド	8,192	2019年6月	外国株式	*運用期間2年未満のため、グラフ未掲載
2	グローバル・ロボティクス株式ファンド (年2回決算型)	3,775	2015年8月	外国株式	グロロボ 年2回
3	財産3分法ファンド(不動産・債券・株 式) 毎月分配型	3,621	2003年8月	バランスファンド	財産3分法F
4	スマート・ファイブ(毎月決算型)	3,599	2013年7月	バランスファンド	スマート・ファイブ (毎月)
5	ラサール・グローバルREITファンド (毎月分配型)	3,103	2004年3月	グローバルリート	ラサール(毎月)
6	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算 型)	2,848	2018年10月	バランスファンド	3倍3分法F(1年)
7	グローバル・フィンテック株式ファンド	2,611	2016年12月	外国株式	グローバル・フィン テック
8	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1 年決算型)	1,039	2019年1月	外国株式	*運用期間2年未満のため、グラフ未掲載
9	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	962	2003年8月	外国債券	月桂樹
10	グローバル・モビリティ・サービス株式 ファンド(1年決算型)	560	2018年1月	外国株式	モビリティF(1年)
11	ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1 年決算型)	542	2016年1月	日本株式	ジャパロボ 年1回
12	GW7つの卵	507	2003年2月	バランスファンド	GW7つの卵
13	日興五大陸債券ファンド(毎月分配型)	486	2006年6月	外国債券	五大陸債券F
14	深セン・イノベーション株式ファンド(1 年決算型)	468	2017年11月	外国株式	深セン・イノベーショ ン
15	ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり(SM A専用)	390	2017年9月	その他	*資産クラスがその他のため、グラフ未掲載
16	日興ジャパンオープン	371	1998年8月	日本株式	ジパング
17	中華圏株式ファンド(毎月分配型)	362	2010年10月	外国株式	中華圏株式F
18	世界の財産3分法ファンド(不動産・債 券・株式) 毎月分配型	313	2005年9月	バランスファンド	世界財産3分法F
19	日興・AMPグローバルREITファンド 毎月分配型 A(ヘッジなし)	294	2004年1月	グローバルリート	AMPグローバルREIT A コース
20	利益還元成長株オープン	289	1991年6月	日本株式	Jグロース

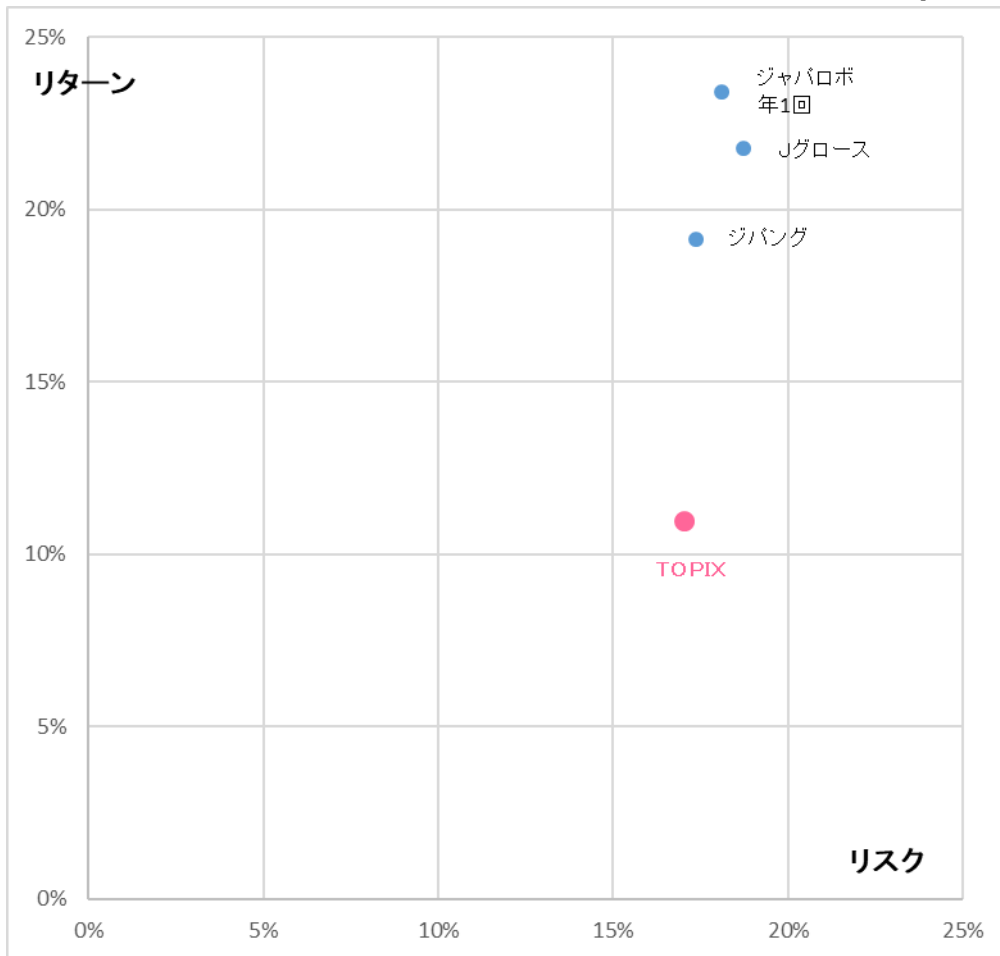
1.1.8 代表ファンドの過去2年間のリスク/リターン プロファイル(2020年12月末時点)



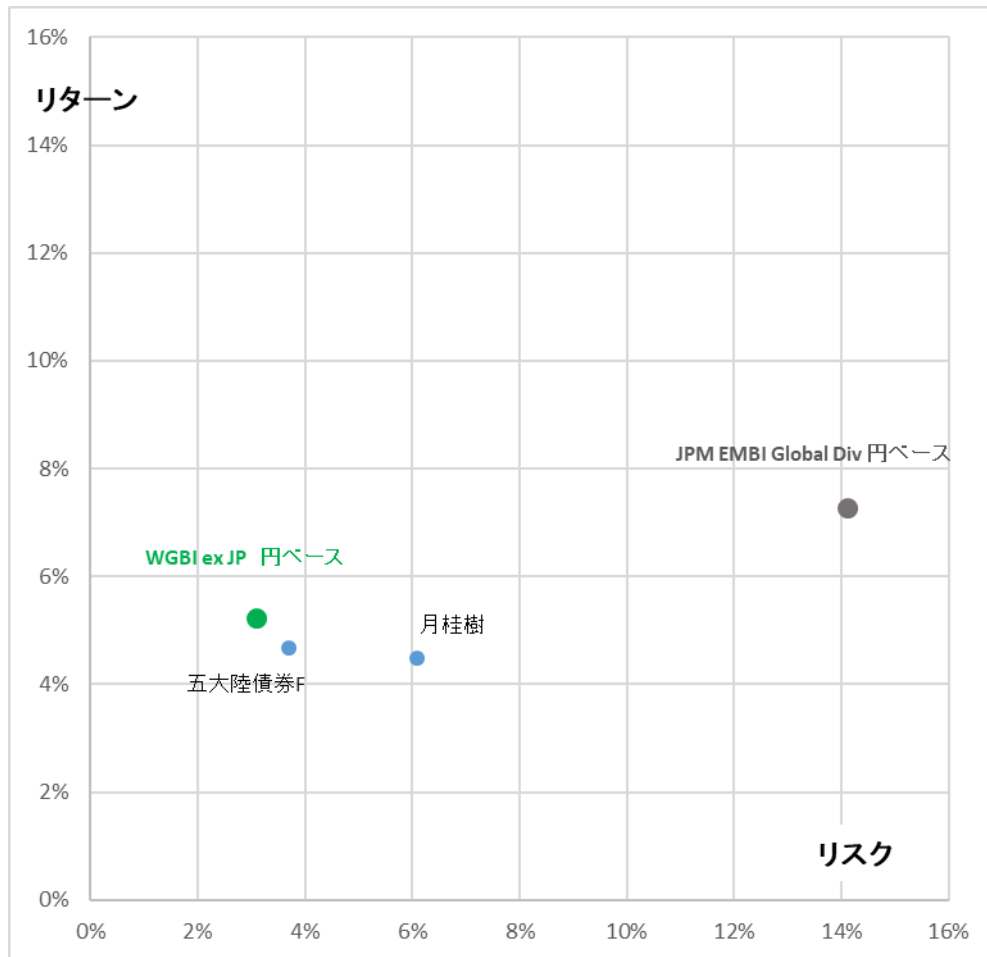
1.1.9 外国株式の代表ファンドの過去2年間のリスク/リターン プロファイル(2020年12月末時点)



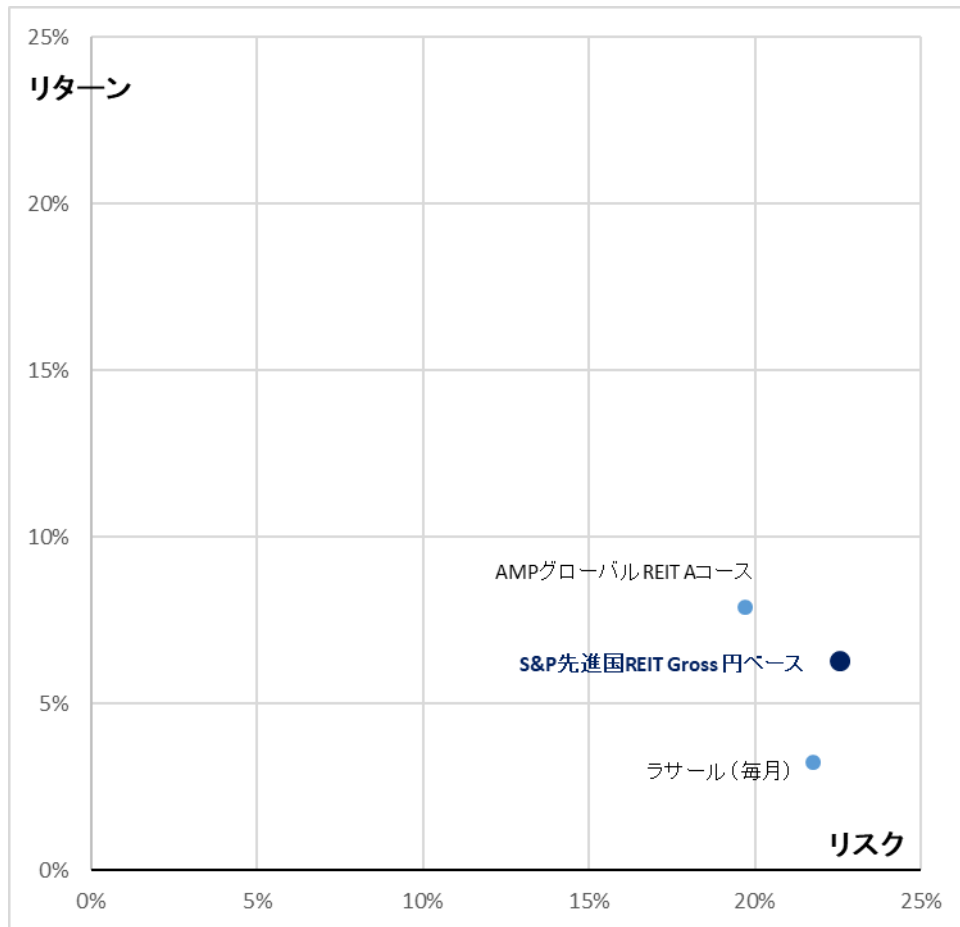
1.1.10 日本株式の代表ファンドの過去2年間のリスク/リターン プロファイル(2020年12月末時点)



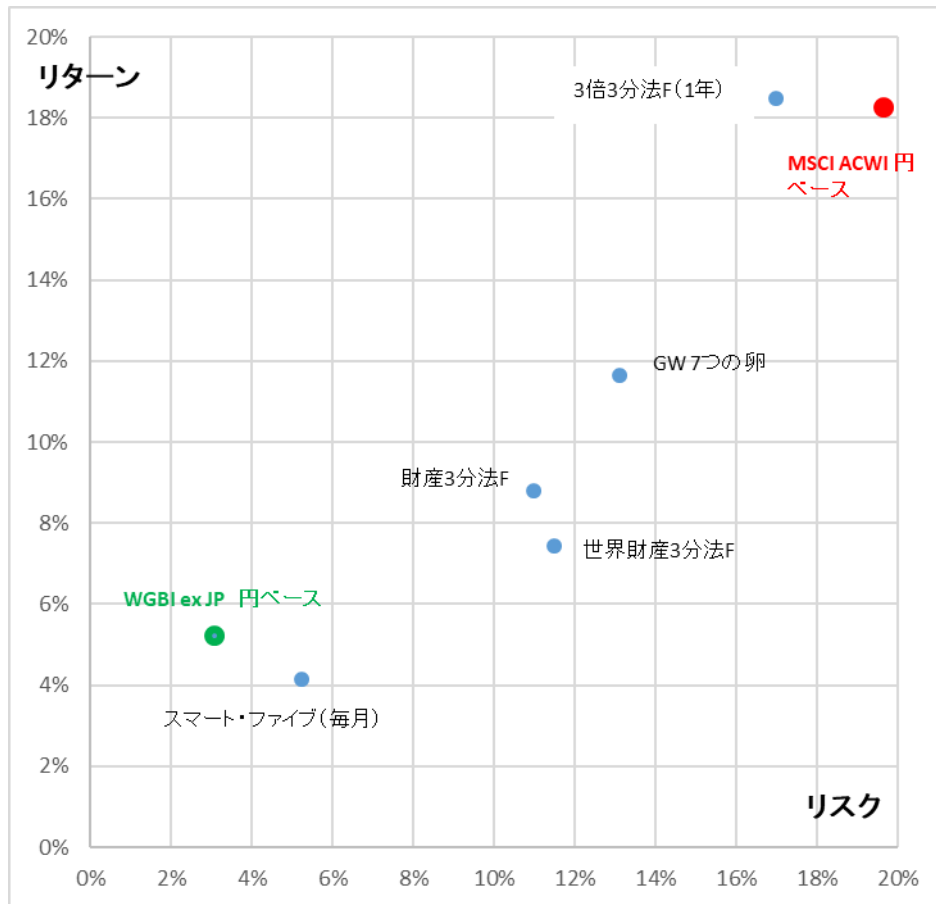
1.1.11 外国債券の代表ファンドの過去2年間のリスク/リターン プロファイル(2020年12月末時点)



1.1.12 グローバルリート代表ファンドの過去2年間のリスク/リターン プロファイル(2020年12月末時点)



1.1.13 バランスファンドの代表ファンドの過去2年間のリスク/リターン プロファイル(2020年12月末時点)



1.1.14 代表ファンドの過去3年間のシャープレシオ(2020年12月末時点)

		2020/12末		A	B	A/B
	ファンド名称	残高(億円)	設定年月	超過収益	標準偏差	シャープレシオ
1	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	3,775	2015年8月	14.21%	22.07%	0.64
2	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	3,621	2003年8月	4.88%	10.11%	0.48
3	スマート・ファイブ(毎月決算型)	3,599	2013年7月	1.57%	4.72%	0.33
4	ラサール・グローバルREITファンド(毎月)	3,103	2004年3月	0.44%	19.77%	0.02
5	グローバル・フィンテック株式ファンド	2,611	2016年12月	31.40%	26.33%	1.19
6	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	962	2003年8月	0.99%	5.93%	0.17
7	ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	542	2016年1月	9.23%	19.23%	0.48
8	GW7つの卵	507	2003年2月	4.04%	12.89%	0.31
9	日興五大陸債券ファンド(毎月分配型)	486	2006年6月	1.68%	4.62%	0.36
10	深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	468	2017年11月	20.28%	28.83%	0.70
11	ゴールド・ファンド為替ヘッジあり(SMA専用)	390	2017年9月	10.18%	12.05%	0.84
12	日興ジャパンオープン	371	1998年8月	6.40%	18.19%	0.35
13	中華圏株式ファンド(毎月分配型)	362	2010年10月	6.80%	21.85%	0.31
14	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	313	2005年9月	3.33%	10.58%	0.31
15	日興・AMPグローバルREITファンド毎月分配型A(ヘッジなし)	294	2004年1月	2.30%	18.23%	0.13
16	利益還元成長株オープン	289	1991年6月	8.71%	18.91%	0.46

(注)リスクフリーレートは、LIBOR1Mを使用。

1.1.15 代表ファンドの過去1年間のシャープレシオ(2020年12月末時点)

		2020/12末		A	B	A/B
	ファンド名称	残高(億円)	設定年月	超過収益	標準偏差	シャープレシオ
1	グローバル・プロスペクティブ・ファンド	8,192	2019年6月	90.05%	33.89%	2.66
2	グローバル・ロボティクス株式ファンド (年2回決算型)	3,775	2015年8月	28.23%	23.60%	1.20
3	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式) 毎月分配型	3,621	2003年8月	3.34%	14.46%	0.23
4	スマート・ファイブ(毎月決算型)	3,599	2013年7月	-0.32%	6.39%	-0.05
5	ラサール・グローバルREITファンド (毎月分配型)	3,103	2004年3月	-10.25%	28.47%	-0.36
6	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	2,848	2018年10月	8.81%	22.19%	0.40
7	グローバル・フィンテック株式ファンド	2,611	2016年12月	66.53%	30.31%	2.20
8	グローバル全生物ゲノム株式ファンド (1年決算型)	1,039	2019年1月	68.70%	22.88%	3.00
9	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	962	2003年8月	4.11%	7.93%	0.52
10	グローバル・モビリティ・サービス株式 ファンド(1年決算型)	560	2018年1月	62.63%	26.34%	2.38
11	ジャパン・ロボティクス株式ファンド (1年決算型)	542	2016年1月	24.78%	22.79%	1.09
12	GW7つの卵	507	2003年2月	7.45%	16.63%	0.45
13	日興五大陸債券ファンド(毎月分配型)	486	2006年6月	3.61%	4.60%	0.79
14	深セン・イノベーション株式ファンド (1年決算型)	468	2017年11月	53.93%	32.55%	1.66
15	ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり (SMA専用)	390	2017年9月	21.17%	13.88%	1.53
16	日興ジャパンオープン	371	1998年8月	17.90%	21.24%	0.84
17	中華圏株式ファンド(毎月分配型)	362	2010年10月	18.60%	21.50%	0.87
18	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式) 毎月分配型	313	2005年9月	0.76%	14.98%	0.05
19	日興・AMPグローバルREITファンド 毎月分配型A(ヘッジなし)	294	2004年1月	-7.15%	25.22%	-0.28
20	利益還元成長株オープン	289	1991年6月	19.48%	23.73%	0.82

(注)リスクフリーレートは、LIBOR1Mを使用。

1.1.16 代表ファンドのインベスターリターン(期間は設定来)

	ファンド名	インベスターリターン(年率)	基準価額の騰落率(年率)
1	グローバル・プロスペクティブ・ファンド	99.92%	82.72%
2	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	12.76%	15.70%
3	財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	1.31%	5.07%
4	スマート・ファイブ(毎月決算型)	2.98%	3.71%
5	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	8.82%	3.77%
6	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	7.16%	15.12%
7	グローバル・フィンテック株式ファンド	29.56%	35.09%
8	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	40.70%	50.76%
9	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)	3.38%	3.89%
10	グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)	18.48%	22.42%
11	ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	9.06%	13.91%
12	GW7つの卵	0.56%	5.94%
13	日興五大陸債券ファンド(毎月分配型)	0.19%	2.95%
14	深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	9.96%	17.51%
15	ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり(SMA専用)	11.69%	9.33%
16	日興ジャパンオープン	-3.65%	3.69%
17	中華圏株式ファンド(毎月分配型)	1.66%	6.61%
18	世界の財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型	-4.46%	4.02%
19	日興・AMPグローバルREITファンド毎月分配型 A(ヘッジなし)	7.72%	5.40%
20	利益還元成長株オープン	-24.76%	12.93%

注)利益還元成長株オープンは、過去データ取得の関係上、計算期間を2010年9月末からとした。

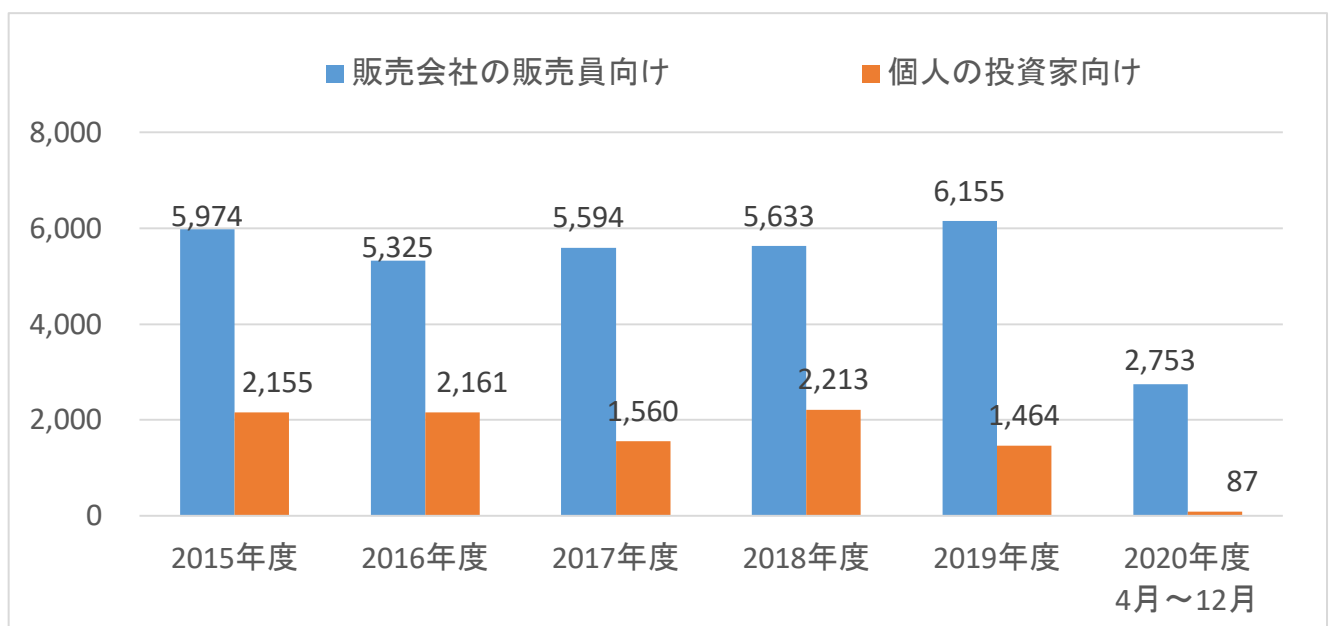
※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

1.1.17 「日興AMファンドアカデミー」ブランドでの情報発信

シリーズ化された主な投資情報	配信頻度	備考
楽読(ラクヨミ)	週2回程度	2020年は110回
こよみ	月1回	
語句よみ(ごくよみ)	月1回	
マーケット5ミニッツ	月1回	
ウィークリー・マーケット	週1回	
データウォッチ	週1回	
フォローアップ・メモ	不定期	2020年は9回
グローバルREITウィークリー	週1回	
マンスリー・マーケット	月1回	
JAPAN in Motion	月1回	
GLOBAL EQUITY OVERVIEW	四半期	
日興AMニュースレター	不定期	2020年は2回
CHINA INSIGHT	不定期	2020年は20回
KAMIYAMA Reports	不定期	2020年は26回
KAMIYAMA Seconds!	不定期	2020年は43回
投資ってなんだ!?	不定期	2020年は1回
Robotics Report	月2回	
ふいんてっく通信	月2回	
日興アセットマネジメントがお伝えしたいこと	不定期	2020年は3回

1.1.18 セミナー開催回数

(単位:回)

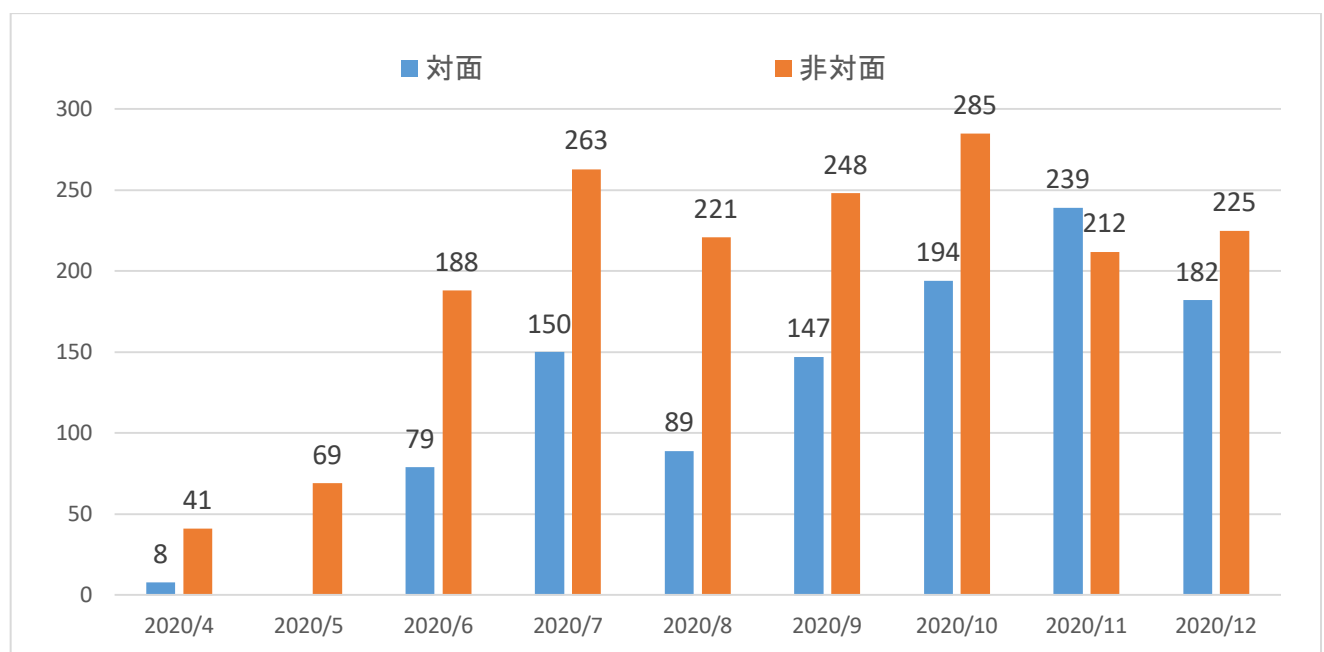


2020 年は、新型コロナウイルスの発生により、従来のような対面方式によるセミナーの開催は困難な状況が続いていますが、当社は業界に先駆けて以下のような活動をいち早く手掛け、販売会社の販売員の皆様に対する支援や販売会社を通じた個人投資家の皆様へのマーケット情報の提供等に努めることで、お客様へのフォロー体制に高い評価をいただくことが出来ました。

<コロナ禍における販売会社等への対応について>

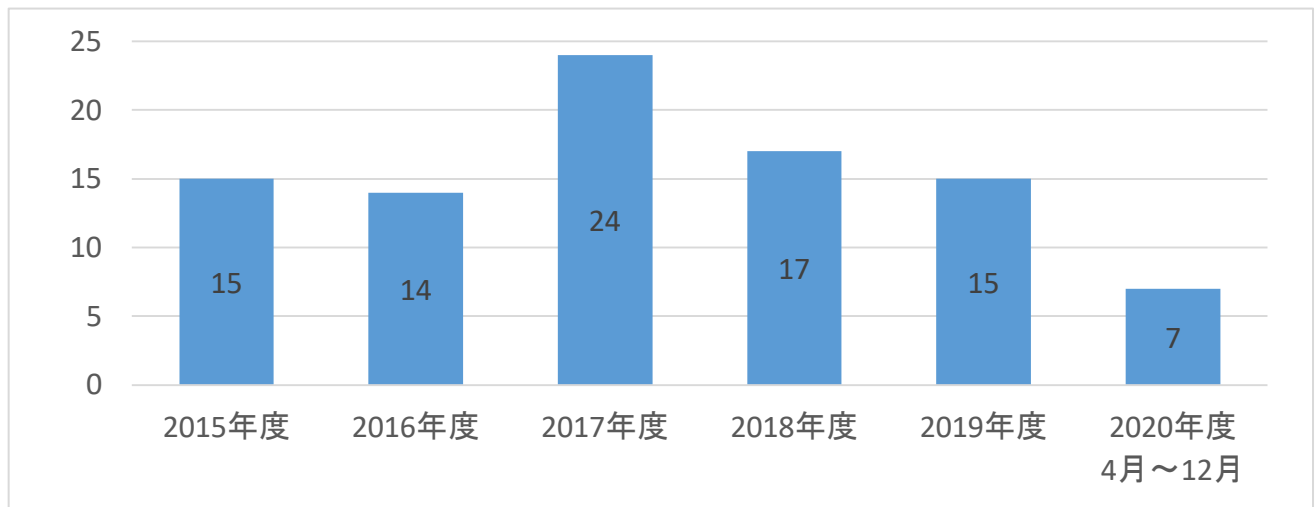
当社では、コロナ禍において、セミナーや研修の開催方法にデジタル技術をいち早く導入し非対面型のフォロー体制を構築いたしました。これにより対面によらないお客様支援策を取り入れることができ、個人投資家のお客様へのフォローや商品説明、最新のマーケット情報等の伝達等の面で心を砕かれている販売会社の販売員の方にも「迅速」「正確」「簡潔」に様々な媒体、情報をお伝えできるようになりました。

2020 年 4 月～12 月の対面・非対面によるセミナー・研修件数



非対面によるセミナーや研修を積極的に推進した結果、2020 年 4 月以降は対面・非対面での柔軟な対応が可能となり、安全を確保しつつ場所の制約を受けないフォロー体制を構築することが出来ました。

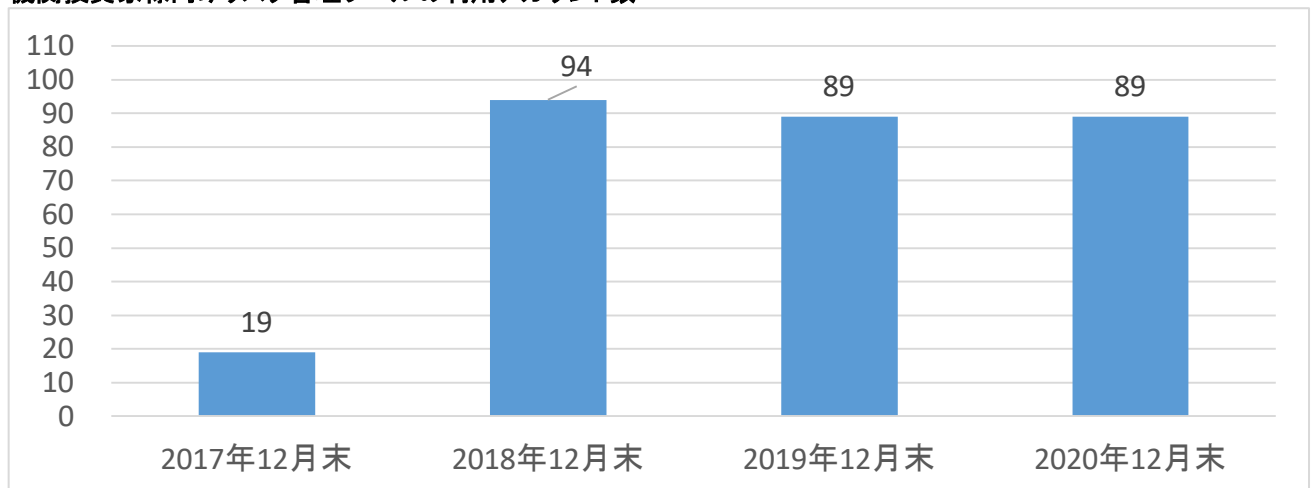
1.1.19 ファンドアワード受賞本数



当社は、商品開発がおお客様の利益に適ったものになるように、日々業務運営を行っております。外部評価機関による評価では、2020年度(2020年4月～12月)は、海外株式2本、海外債券3本、バランス型2本の計7本のファンドが受賞いたしました。※集計対象は「R&Iファンド大賞」、「ファンド オブ ザ イヤー」(モーニングスター)、「リッパーファンドアワードジャパン」。

1.2 法人のお客様に向けた活動

機関投資家様向けリスク管理ツールの利用アカウント数



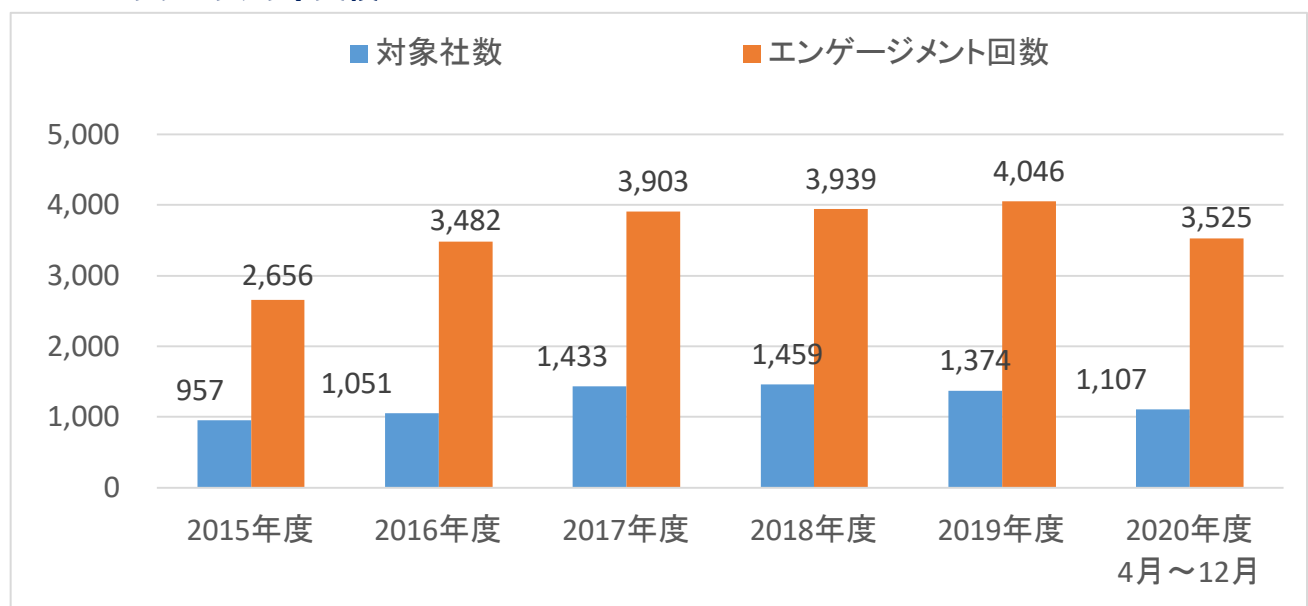
機関投資家の皆様に対しては、お客様のニーズをお伺いして、ニーズに応えようと努力することが出発点となりますが、その上でお客様のリスク選好度に応じた運用商品を提案させていただくことが、当社の販売活動の形となります。この一環として、2017年12月に、法人投資家の皆様に向けてリスク管理の向上に資するツールとサポートの提供を開始いたしました。2020年12月末時点の利用アカウント数は89件になります。

2. スチュワードシップ活動

私たちは、投資先企業の価値を投資家の立場から向上させるお手伝いをさせていただくこと、つまり、議決権行使を含むスチュワードシップ活動に積極的に取り組むことは、資産運用会社としての極めて重要な責務であると考え、継続的な活動と地道な内容改善を目指して努力を続けております。また、ESGについては、運用のプロセスの中に積極的にESGの概念を組入れており、中長期的な企業価値の向上、持続的成長を促すために非財務情報を含む企業価値評価を行い、投資意思決定に役立てております。この取り組みをさらに全世界的に推進していくために、ESGグローバル・ステアリング・コミッティーを組織しており、国内外の運用拠点のリーダーがメンバーとなり、ESG投資の取り組みや実践方法、新たなアプローチ方法などを協議・模索しております。

以上に挙げた項目につきまして、これまでの取り組みやその成果をご紹介します。

2.1 エンゲージメント実績



当社ファンド・マネージャー、アナリストは従前より、アクティブ戦略の投資先企業の企業価値向上を旨とするエンゲージメント、議決権行使活動に積極的に取り組んできました。2013年より、ESG価値評価を加えた包括的な企業評価手法であるCSV評価をスタートさせ、対象企業600社超に対して、中長期的な視点から、持続的成長、企業価値向上に資する取り組みを中心に評価を行っています。また、2017年3月にパッシブ戦略を含めた日本株全保有株式(約2,200社)について、投資先の企業価値・株主価値向上を促進するための活動を行う専門の組織を発足させました。これにより、投資先企業の株主価値の最大化を図る目的をもって行うエンゲージメント及び議決権行使活動をさらに推進していく態勢が整いました。2020年(4月～12月)の当社のエンゲージメント対象社数は1,107社。また同期間のエンゲージメント回数は3,525回になります。

2.2 議決権行使の実績

会社提案 2019/7 - 2020/6

議案種類		賛成	反対	計	反対比率
会社機関に関する議案	取締役の選解任	15,192	2,191	17,383	12.6%
	(参考) 会社単位	1,400	746	2,146	34.8%
	監査役の選解任	2,235	203	2,438	8.3%
	(参考) 会社単位	953	169	1,122	15.1%
役員報酬に関する議案	会計監査人の選解任	57	0	57	0.0%
	役員報酬	713	76	789	9.6%
	退任役員の退職慰労金の支給	58	86	144	59.7%
	資本政策に関する議案 (定款に関する議案を除く)	剰余金の処分	1,416	71	1,487
組織再編関連		48	1	49	2.0%
買収防衛策の導入・更新・廃止		0	94	94	100.0%
その他 資本政策に関する議案		56	4	60	6.7%
定款に関する議案		478	32	510	6.3%
その他の議案		1	0	1	0.0%
計		20,254	2,758	23,012	12.0%

株主提案 2019/7 - 2020/6

議案種類		賛成	反対	計	賛成比率
会社機関に関する議案	取締役の選解任	9	93	102	8.8%
	(参考) 会社単位	5	20	25	20.0%
	監査役の選解任	6	3	9	66.7%
	(参考) 会社単位	1	1	2	50.0%
役員報酬に関する議案	会計監査人の選解任	0	0	0	0.0%
	役員報酬	0	3	3	0.0%
	退任役員の退職慰労金の支給	0	0	0	0.0%
	資本政策に関する議案 (定款に関する議案を除く)	剰余金の処分	2	7	9
組織再編関連		0	1	1	0.0%
買収防衛策の導入・更新・廃止		2	0	2	100.0%
その他 資本政策に関する議案		1	5	6	16.7%
定款に関する議案		1	128	129	0.8%
その他の議案		0	0	0	0.0%
計		21	240	261	8.0%

投資先企業の価値を投資家の立場から向上させるお手伝いをする、つまり、議決権行使を含むスチュワードシップ活動を通じて企業の持続的な成長をお手伝いすることは、機関投資家としての責務です。社内のガバナンスを強固なものとし、社外的な透明性を強化するために「スチュワードシップ&議決権政策監督委員会」を、2016年6月に発足させました。この監督委員会は、委員の過半数を社外役員が占める体制とすることで独立性を担保しています。この委員会は、監督活動の一環として、議決権行使状況のモニタリング、指導などを行います。

2020年5月には、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた当面の国内株式議決権行使について、当社の考え方を明確にする対外公表を行いました。サステナブルな視点でより柔軟な議決権行使判断を推進することや、投資先企業との対話をより緊密に行うべく対話を希望する企業向けの問い合わせ窓口を設置することなどを表明しました。

2.3 ESG への取り組み

日本で初めての SRI(※)ファンドであり、環境に優れた企業に投資する日興エコファンドの運用を 1999 年に開始して以来、ESG 要素に関しては、中長期で企業価値に寄与するものと捉え、全ての運用プロセスに組み込んでおります。さらに責任ある投資を実現していくために、常に新しい取り組みを続けています。当社では 2013 年 8 月より、共通価値創造、CSV (Creating Shared Value。社会の課題の解決と企業の利益の方向性を合わせ、その両立を図ることで、社会と企業の両方に価値を生み出すというもの)という考え方を応用し、社内アナリストが企業の財務、市場競争力、ESG を包括的に評価する CSV の独自スコアリングを策定し、銘柄選択に活用しております。現在東京証券取引所に上場されている 600 銘柄を対象としており、中長期的な視点から、評価を行っています。CSV 評価対象企業 600 社に対しては、社内アナリストが密にエンゲージメントを実施し、ESG 価値を含めた企業価値の改善に日々勤しんでおり、既に 7 年を超える価値評価、エンゲージメント実績を有しています。

※SRI は、Socially Responsible Investment の略称であり、社会的責任投資のことを意味します。社会的責任投資は、企業への投資を行う際に、従来の投資基準(企業の経済面)に加え、環境や社会への取り組み(責任や貢献)も評価に取り入れる投資の考え方(手法)を言います。

その他の取組については以下のとおりです。

評価機関による責任原則(PRI)のレーティング

	2020年	2019年	2018年
戦略とガバナンス	A+	A+	A+
上場株式 — ESG課題の組み込み	A+	A+	A+
上場株式 — アクティブオーナー	エンゲージメント	A+	A+
シップ		議決権行使	A+
債券 — 国債等	A+	A+	A+
社債 — 金融	A+	A+	A+
社債 — 非金融	A+	A+	A+

社会的責任投資(SRI)を投資テーマとするファンド

投資対象	ファンド名称	残高(億円)
国内株式	日興エコファンド	74
	年金積立 エコファンド	8
海外債券	世界銀行債券ファンド(毎月分配型)	115
	S M B C ・日興 世銀債ファンド	17
	グリーン世銀債ファンド	22

2007 年から、当社は国連がサポートする責任投資原則(Principles for Responsible Investment, PRI)の署名機関になっています。運用機関としては先駆的な動きですが、これは、中長期的な企業価値の創造と持続可能責任投資に寄与したいという当社のコミットメントの現れです。この PRI による 2020 年の評価報告書(アセスメントレポート)において、全社的な ESG 運用体制を評価する項目である「戦略とガバナンス」、およびインハウス運用に関するすべての項目にて最上位評価である「A+」を獲得しました。「戦略とガバナンス」に関して、当社が最上位評価を獲得するのは 7 年連続でした。PRI の年次評価は、PRI 事務局が PRI に署名する機関投資家を対象に責任投資の実施状況等を評価したものです。評価結果は 6 段階(A+、A、B、C、D、E)で付与され、「A+」が最高評価となっています。

また、2017年3月の専門の組織の発足により、当社のESG調査対象は従来の約950社(アクティブ戦略の投資ユニバース)から、約2,200社(パッシブ戦略の投資先を調査対象に追加)に拡大しました。

3. 当社の企業としてのESGへの取組みについて

私たちは投資先企業に対してESGへの取組みを追求する以上、私たち自身もESGへの取組みを会社として率先して実行していくことが大事だと考えています。

3.1 ガバナンス

私たちは、資産運用会社として投資先の企業のガバナンス向上を要求する以上は、自らもグローバル水準のガバナンスを常に追求し続けていきたいと考え、3つのガバナンスを実行しています。

3.1.1 経営のガバナンス

当社の取締役会は社外取締役が議長を務め、2020年12月末現在10名中7名が社外取締役、うち当社と資本関係のない独立取締役は5名という体制であり、本邦の運用業界においては極めて独立性と透明性の高いガバナンス態勢を確保しています。

また、当社は2019年6月に取締役会の監査・監督機能の強化、コーポレート・ガバナンス態勢の一層の充実及び企業価値の向上を目的として、監査等委員会設置会社に移行しモニタリング・ボード型のガバナンスも取り入れた態勢となり、経営の監督と業務執行の分離も一層明確かつ経営判断もより迅速に行える体制となりました。

3.1.2 議決権行使のガバナンス

私たちは、2016年6月に、企業とのエンゲージメントや議決権行使などのスチュワードシップ活動における透明性向上とガバナンス強化を図るため、社外委員が過半数を占めるスチュワードシップ&議決権政策監督委員会を発足しました。このような第三者委員会の設置は、国内の運用会社で初めての試みです。同委員会は、原則として四半期に一度開催されており、社外委員との間で活発な意見交換が行われております。これまで合計で23回の開催実績を持ちます(2020年は、5回開催)。詳しい活動については、[別紙](#)をご参照ください。

3.1.3 ファンドのガバナンス

2017年9月に、社外委員が過半数を占める、ファンド・アドバイザリー・ボードを発足し、原則として四半期毎に同委員会を開催することとしております。これまで合計で10回開催し社外委員との間で意見交換を行いました(2020年は、3回開催)。詳しい活動については、[別紙](#)をご参照ください。

3.2 環境

私たちは、環境に配慮した職場作り、社員主導の環境への取組み、CO₂(二酸化炭素)排出量の最小化などを通じ、持続可能な環境への貢献に尽力します。

- ◆ カーボン・ニュートラルの達成

当社は、2018年以降事業における東京、シンガポール、香港、シドニー、オークランド、ニューヨーク、ロンドン、エジンバラの各オフィスの二酸化炭素排出量を評価し、排出量を相殺するため、カーボンクレジットの購入を通して同等の二酸化炭素削減プロジェクトに資金を提供し、これにより「カーボン・ニュートラル企業」の認定を受けています。

◆ 環境問題に関する社内啓蒙活動

年々、海外を中心に、運用会社の持続可能な取り組みについて顧客から問い合わせを受けることが増えています。他業種と比較すると環境へのインパクトは限定的でありながらも、TCFDに賛同している運用会社として、気候変動やその他の環境問題に対する意識を高めていくことが重要と考えています。そのため、このような環境課題に関して社員の理解を深めることを目的として、年に数回 NPO/NGO から専門家をお招きし、これらのテーマについてお話しいただいています。

3.3 社会

私たちは、「ダイバーシティ&インクルージョン」および「不平等の是正」の2つの社会課題に重点的に取り組んでいます。企業文化として多様性を尊重し、誰もが働きやすい職場環境を整備することや、社外でのチャリティー活動や慈善寄附などを通じ、社会的理念の推進に貢献します。また、このような課題についての社員の意思向上の一環として、当事者や指導者など、様々な立場から課題に取り組む方にご登壇いただいています。

◆ ウィメンズ・グループ

私たちは、国連の「女性のエンパワーメント原則」(女性の活躍推進に積極的に取り組む企業の国際的行動原則)に署名した初めての日本の資産運用会社です。私たちは、日本および日本以外の全ての拠点において、社員一人ひとりが多様性をより深く理解して尊重することで、誰もが働きやすい職場づくりを目指します。

◆ LGBT

私たちは、日本で LGBT の支援に取り組む金融関連企業によって設立された支援団体『LGBT ファイナンス』のオフィシャルメンバーです。当社が注力するこの取り組みは、社員による支持のみならず、経営陣からも積極的に支援されています。当社は、LGBT についての理解醸成を図る啓発活動を行なっています。

◆ 障がい者

障がいのある方を交えたワーキンググループの活動では、障がいのある従業員が働きやすい環境を作ることを目指しています。その活動では、一人一人のニーズを理解し、職場における環境の改善について検討し、他部署と連携しながら少しでも環境を整えるよう取り組んでいます。

◆ 慈善団体への寄付および支援活動

私たちは、全社的にチャリティーや慈善活動に参加しています。今年はコロナウィルスの影響で、例年の様にボランティア活動が実現できませんでしたが、従業員が寄付活動に参加する機会を提供して参りました。特に、コロナ禍で生活困窮者はより一層厳しい状況に置かれていることから、海外を含めて様々な寄付活動に取り組みました。

<おわりに>

世界を取り巻く環境の変化やテクノロジーの高度化、金融商品の発達といった様々な変革の中で当社が一貫して目指してきたこと、またこれからも引き続き強い使命感を持って取り組んでいくこと、それは、「お客様の最善の利益」の追求です。

2020年は新型コロナウイルスの発生と世界的な感染拡大を受け、社会全体で働き方や行動様式も大きく変わり、様々な場面で発想の転換を求められる一年となりました。お客様にとっても厳しい環境が続いていることと思いますが、当社は、どのような環境においてもお客様がしっかりとご自身の資産形成計画を立て、短期的な市況環境に惑わされることなく、長期目線でご自身のゴールに向けて投資を継続していくことこそ重要であるとますます実感しています。

日興アセットマネジメントは、お客様から一層信頼されパフォーマンスで評価される会社になることを目指し、運用能力の高度化、お客様の利益の最大化を図る商品開発力の追求、コーポレート・ガバナンスの強化にひきつづき注力して参ります。

以上